

原子力リスク研究センター（NRRC） 第 24 回 技術会議 議事録

1. 日 時：2019 年 2 月 27 日（水）15：00～17：10

2. 場 所：電力中央研究所 大手町本部 役員大会議室

3. 出席者（順不同、敬称略）

主査： 横尾（NRRC）

委員： 竹村（北海道電力；勝海代理）、金澤（東北電力）、
谷・村野・山本（東京電力 HD）、伊原・中川・浜田（中部電力）、
福村（北陸電力；上野代理）、鈴木・多田・田中（関西電力；吉原代理）、
谷川（中国電力；林代理）、黒川（四国電力）、米丸（九州電力）、
石坂（日本原電）、大柿（日本原燃）、鞍本（電源開発）、
薄井（東芝）、今野（日立 GE）、山岸（三菱重工）、
渥美（電事連）、倉田（原安進）、
高橋・岡本・白井・梅木・山本・山中・朝岡（NRRC）

4. 議事概要

(1) 研究開発の状況について

○NRRC より、「RIDM プロセスの導入に向けたアクションプラン（フェーズ 2）」、「リスク情報活用演習の試行」「PRA 開発におけるモデルプラント・パイロットプロジェクトの推進」について報告がなされた。

（主なコメント ◆外部委員、◇電中研委員）

◆海外などで RIDM をやっていくときも、規制側の審査の考え方と、事業者の考え方は、乖離しているような状態なのか。

◇アメリカはそれほど日本と変わらない。まずは、不確かさを見ないといけないという基本認識で、具体的に合意しなければいけないことをやっているはずだ。そのために話しかける材料としても、PRA 等をやってみる価値があると思う。

◆訓練担当者、運転員、作業員が HRA に参加すればスムーズに進むだろうが、これの人たちにとっても何か得るものがあるのか。HRA で出てきた結果に対する理解が、自らも進むようになるということか。

◇そのとおり。例えば、国内の事業者にアメリカのリカバリーに当たるものの話をしたときに、こういうシナリオで展開していくことがあるというところの知見が得られる。要するに、シナリオの気付きはあると考えられる。

(2) NRRC活動状況及び研究トピックスについて

○NRRCより、「HRAガイドの運用」、「自然外部事象影響評価のブレークスルーを目指した高性能計算の活用」「NRRCワークショップ2019開催」について報告がなされた。

以上